

圏域	中播磨圏域
会議	地域医療構想調整会議 平成29年度 第1回
日時	平成29年7月27日(木)14:25～16:10
場所	姫路市医師会館 5階大ホール
議長	姫路市医師会長 山本 一郎
出席者	欠席:松本委員 代理出席:山名委員、岩見委員、橋本委員、田所委員 上記以外は別紙構成員名簿のとおり本人出席
議事次第概要	1 兵庫県地域医療構想の進捗状況について 2 病床機能転換推進補助金事業について 3 地域医療介護総合確保基金(医療分)地域事業について 4 兵庫県保健医療計画の改定について 5 県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合再編にかかる地域医療連携推進法人設立後の状況について
内容	<p>1 兵庫県地域医療構想の進捗状況について説明。 ①推進体制について ②議長の選出、職務代理者の専任 ③中播磨圏域の地域医療体制について(平成28年度病床機能報告集計結果の共有) 【意見・質疑】 特になし。</p> <p>2 病床機能転換推進事業補助金について協議。 ①独立行政法人国立病院機構姫路医療センター ②医療法人社団普門会姫路田中病院 【主な意見】 ・中播磨圏域では緩和ケア病床が不足しているため、病院を探すのに苦労している。 専用病床が増えることは患者にとってよいことである。 ・回復期病床が足りないことは確かで、慢性期から回復期への病床機能転換は時期を得ていると思われる。</p> <p>3 地域医療介護総合確保基金(医療分)地域事業について協議。 ①在宅高齢者に対する食支援に関する多職種研修会 ②歯科衛生士の人材確保とスキルアップ事業 ③在宅高齢者の舌機能の客観的評価のための機材整備事業 ④特定高齢者口腔機能向上に係る判定基準の客観的可視化</p> <p>【質疑応答】 Q しばらく間隔を置いて再就職をされる場合に、技術職のスキルのリハビリのようなものは何か考えているのか？ A 平成28年度に兵庫県歯科医師会、兵庫県歯科衛生士会が6回シリーズくらいの研修を行っている。今回の提案は1回の研修会を考えている。 Q 高齢化に伴い訪問歯科のニーズがとて多いと思うが、歯科衛生士の人材育成というのはこういったニーズが増えたことによる人材不足なのか。また、未就業者が現場に戻れば、こういった問題が解決できるのか、もしくは歯科衛生士全体が少ないのかといった点で教えて欲しい。 A 歯科衛生士全体の数が少ないと思われる。在宅の分野が今後、増えてくるので口腔ケアや嚥下リハビリ等では、ますます人材不足になっていくような状況である。潜在歯科衛生士が復職しても、それで足りるということはないと思われる。 Q 4回の会合をして、実際に多職種で働く場はどのように考えているのか。現場でどのように協働して働いていくのか。 A 研修会を通じて確認をしていきたいと思っている。食に関わる専門職はたくさんあるが、どこが主であるかではなく、家族やヘルパーが食に問題のある人を見つけて、在宅の医師につなぐ。在宅医師が、歯科に問題がある、食事形態に問題があるなどということで、他につなぐというようなことになるとと思われる。 Q 委員会の開催が10名で4回となっている。その人達だけの共有に終わってしまうのであれば、なんの広がりもないと思う。その辺をどうされるのか。 A 現在、姫路市歯科医師会で多職種の連携や訪問歯科などを担当する委員会がある。そこで、この研修会のことを検討する委員会を何回か開こうと計画させていただいた。 Q 実際の治療をどのように行っていくのか。もし歯科で治療ができない場合は圧を測った情報の共有をどういうふうにしていくのか。 A 舌圧を測ることにより、舌をトレーニングする機械がある。舌圧計により20kPa以下の方に器具を使い、リハビリ・トレーニングすることによって、ある程度、舌圧が高まるということをおつけしている文献の後ろの方に記載してある。 もう一点は、舌がんで舌を切除している方や、脳血管障害で麻痺が残り、舌が上手く動かない場合、舌接触補助床というものを作ることがある。舌道を狭くして、舌がうまく食塊を作ったり、飲み込んだりする場合にうまく舌道を閉鎖して、咽頭の方に送り込むように。その際に厚みをどれくらいにすればよいかを、この舌圧計で調整できる。そういった活用法や、いろんな活用法が出てくると思う。</p>

	<p>Q 在宅に使う機械をどこで管理し、運用していくのかわからない。3台あれば充分なのか。</p> <p>A 姫路市歯科医師会では今までも在宅で使用する機材を会で整備し、訪問に行く方や希望する方に貸し出しをしている。それと同じように希望する方に貸し出しをしていこうと考えている。管理は口腔保健センターで行う。3台あれば、充分かはわからない。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種ですることはよいことなので、ぜひとも広がりのある活動にしていだかないと無駄と思う。</li> <li>・現在、姫路市では多職種が集まって行う姫路市在宅医療介護連携会議の中に食べる部会があり、そこで歯科医師会が検討された内容があがってくるのではないかと考えている。食べるということは、すごく大事なことで、来年の医師会の健康フェスティバルも“食べる”というテーマで実施しようと考えているので、医師会としては賛同したい。</li> <li>・在宅(医療)を行っている医師の立場から言うと、食べる、嚥下のこととあわすと、すごく難しいところいろいろある。委員からも3台で足りるのかという話もあったが、パイロット的に実施し、すぐよければ広げていくことができるのではないかと考えている。</li> <li>・職種間で、食に関する情報の共有化ということは非常に大事なことである。研修会、連携のあり方を共有する会議は非常に重要と思っているので、ぜひ進めていただきたい。</li> <li>・本調整会議で出た意見を踏まえて効率的に運用していただければと思う。</li> <li>・1回の研修会で、どれくらい不安を解消など、いろんな問題があると思うが、人材の確保やスキルアップは重要なことで、課題解決について有益な事業と思う。</li> <li>・今後ますます高齢化していくので、訪問歯科診療というような事業が増えていくと思う。周産期などで離職される方が多く、その方達が再就職する時の指導や、どうするかということは、どの職種も難しいところだと思う。こういった潜在的な数というのはあるようなので、いかにシステムを組んで再就職にもっていくかということが重要な課題ではあると思う。</li> <li>・これから高齢者が増える中において、しかも在宅をしなければいけない。そして、食というのは非常に重要で、嚥下機能というのは重要であるので、在宅において、やはり客観的データを持って、いろいろ議論するということは必要である。最初からパーフェクトに行くことは無理である。まず始めることが重要だと思うので、大変よいと思う。</li> <li>・データの活用の問題や、高齢対策の問題等もあると思う。今後、そういった点を順次、検討いただければと思う。</li> </ul>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できれば、在宅の歯科診療を増やしていただけると有り難い。そこに舌圧計を活用していただけるのであれば、非常に賛成したい。</li> <li>・口腔ケアや嚥下能力を保つということは非常に重要なことである。測定のみならず、それを後々の患者さんのADLのアップにつなげていただけたということであれば非常に望ましいことだと思う。</li> </ul> <p>4 兵庫県保健医療計画改定の検討体制(案)及びスケジュールを説明。 【意見・質疑】 特になし。</p> <p>5 県立姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院の統合再編にかかる地域医療連携推進法人設立後の状況について説明。 【意見・質疑】 特になし。</p>
<p>協議が調った事項</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 姫路市医師会 山本会長を議長に選出。</li> <li>2 神崎郡医師会 藤川会長を議長代理に指名。</li> <li>3 病床機能転換推進補助金について提出のあった事業計画2件をともに承認。</li> <li>4 地域医療介護総合確保基金(医療分)地域事業について、平成30年度の提案事業4件をいずれも「地域の課題に対応する」として承認。</li> </ol>
<p>次回以降の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「圏域の課題抽出」「病床機能の分化・連携のための役割確認」等(H29.10~12月頃の開催を予定)</li> </ul>